

Nutrition Support Times

VFって何？何がわかるの？

食事を開始したら発熱、喀痰が...

急性期の点滴治療、手術など絶食期間の中止のメドが立ち、いざ食事再開したら、むせがひどい、発熱を来した、喀痰があふれるようになって来た、など経口摂取が順調に進まないケースを経験された方は多いと思います。そのような場合、私達NSTの嚥下サポートチームが主治医や病棟スタッフと共に、各患者さんに応じた嚥下訓練、経口摂取を進めていきます(究極のオーダーメイド治療ですね)。その中で、しばしば登場するVF検査、皆さんの検査のイメージはどのようなものでしょうか？今回のNSTimesではVFについてお話したいと思います。

VFとは？

正式にはVideofluorography、日本語では「嚥下造影」と訳されることが多い検査ですが、いろんな形態の造影剤を飲み込んでもらって、それをX線検査台で透視し、同時にビデオにて記録を残します。車イスの患者さんでも検査台への移動はなく、車イスに座ったまま検査できます。正常な嚥下は1秒程で終了してしまうので、ビデオに記録することで、後で何度も見返して評価することが可能な検査です。

どのような患者さんが検査の対象？

上記のように、むせる、肺炎を繰り返す、飲み込みにくい、といった場合、嚥下障害の存在を疑い検査を行います。ただし、脳梗塞急性期のように回復が見込まれる時には適応にならないことがあります。

検査からわかること

検査前の評価で誤嚥の存在はある程度予測できているため、検査ではどの部位での障害が強いのか、姿勢や

ウムが溶解しにくい事をご存知だと思いますが、同成分のマグミット錠に変えていただくと速やかに溶解します。又、グラマリール細粒は、発泡スチロールのように水に浮いてしまい注入器には吸いにくいですが、グラマリール錠で簡易懸濁法適応となっています。錠剤・散剤両剤形あるウルソ錠とウルソ顆粒では、100mgで比較した場合、両方投与可能ではありますが、ウルソ錠は1錠=0.18g、ウルソ顆粒は2gであり、錠剤のほうが溶解・懸濁しやすいです。又、薬価も、一般的に、散剤・顆粒・水剤よりも錠剤のほうが安価です。(つづく)

体位の工夫で改善するか、食物形態によって嚥下可能なものがあるか、などを見て行きます。検査中の誤嚥を防ぐために、トミ水、セリー、寒天、水の順で検査を進めて行きます。

VFは「いかに安全に直接的訓練法や経口摂取を進めていくか」の情報を得ることにポイントがあります。患者さんの中にはこの検査をすれば明日らどどん口から食べられるようになるテストのように考えている方もおられますが、実際は、検査で誤嚥のリスクが高いことが分かれば、逆に経口摂取中止の判断をせざるを得ないこともあります。

最後に

嚥下障害の深い森を抜けるのに近道はありません。しかし、道中迷わないように、経験豊富な嚥下チームスタッフのガイドの下、適切な時期にVF検査を行い正しい道を選んで歩を進めることが、森を抜けて目的地にたどり着く最良の方法と言えるでしょう。

神経内科 荒木 学



錠剤・カプセル剤の経管投与について 簡易懸濁法

現在、経管栄養チューブを使われている患者さんに、錠剤やカプセル剤を投与する場合、粉末状にして調剤しています。「粉末化」の指示があると、薬剤師は、その薬剤が粉末化してよいかどうか判断し可能なら、錠剤をすりつぶし、カプセル剤をばらし、その量が少ないときは乳糖を加え分包します。

「なぜ粉末化するのか？」と考えたときに、「粒径を小さくして水に懸濁しやすくするため」と考えられますが、もし錠剤・カプセル剤をそのまま水に入れて崩壊・懸濁するなら、つぶす必要はないのではと、倉田なおみ先生が考えられ、簡易懸濁法が誕生しました。

簡易懸濁法は、カプセル剤のカプセルが崩壊する条件(37℃・10分間)を満たすため、約55℃の温湯に、5~10分入れて、崩壊・懸濁させる方法です(8Fr.のチューブが通過するとき適応としています)。病棟の水道から出る一番熱いお湯が、約55℃の温湯として使えます。

「錠剤より散剤のほうが溶解しやすい」と思いがちですが、酸化マグネシ

試飲会のお礼

皆さんのおかげをもちまして、6月25日木曜日NST主催・濃厚流動食試飲会を盛会のうち終了することができました。ありがとうございました。当日は庶務の方々の協力で会場もうまく設営でき、全職種の協力が得られチームのありがたさを改めて感じました。初めて試飲をされた方の新鮮なご意見などを含め、アンケートの結果は後日報告させていただこうと思います。

編集後記

うっとおしい梅雨の時期を向かえ、気持ちも湿り勝ちですが、NSTは12月の兵庫NST研究会の幹事として動き始めなければいけません。皆さんのご協力をお願いします。よろしく!

NCM 講演会予定

月日	内容	担当
7/23	経静脈栄養について	田村薬剤師
8/27	脂質について	院長
9/24	COPDの栄養	立川先生

NSTカンファレンス・回診

毎週水曜日 pm1:00~

8北(861)NSTカンファレンスルーム